

名品展「珠玉の仏教美術」

おながどりもん けまん
尾長鳥文華鬘

※1月14日まで公開

銅製 鍛造 鍍金
縦33.2cm 横39.9cm
鎌倉時代(14世紀)
当館



華鬘とは本来、花を連ねて神や仏に捧げたもので、現在でもインドや東南アジアにおいてはマリーゴールドをはじめとした生花が用いられている。わが国においては金銅製のほか、牛皮製、木製、ガラス玉製といった工芸的に贅を尽した華鬘が平安時代以降多く作られるようになり、仏堂の中を飾るようになった。本作は滋賀県近江八幡市の浄厳院に伝来した金銅製の華鬘で、中央に向かい合う尾長鳥を表わしているのが特徴的である。全体の地は花の連なりを意味する宝相華唐草が透彫されており、この花を束ねるものとして蝶結びの紐(総角)が垂らされている。宝相華は仏の世界に咲き乱れるという空想上の花で、尾長鳥は浄土の花園に舞い遊ぶ様を示しているのだろう。宝相華の葉脈や尾長鳥の羽毛などが、繊細かつ的確なタガネの線で表されるなど、細かな点まで注意が行き届いている一方、全体の造形は大ぶりで充実感があり、鎌倉時代前期に遡る感覚も見受けられる華鬘の名品である。

三田 覚之(当館学芸部主任研究員)

展示品の
みどころ

名品展「珠玉の仏教美術」

特別公開

どう たく
銅 鐸
(松帆銅鐸)

青銅製 鑄造
高22.1~32.2cm
最大幅13.1~18.7cm
弥生時代前期~中期
(紀元前3~前2世紀)
兵庫・南あわじ市



南あわじ市提供

2015年、淡路島の最南端、南あわじ市にある工場の一角で7個の銅鐸が発見された。地名にちなんで「松帆銅鐸」と名付けられたこれらの銅鐸は、わが国の銅鐸の中では古い段階に位置付けられるもので、銅鐸研究を飛躍的に進展させる様々な知見をもたらした。

まず、銅鐸にはそれぞれに「舌」という細長い棒が伴っていた。これは銅鐸内部に吊り下げて音を鳴らすための部品であるが、銅鐸と一緒に発見されるのはとても珍しい。さらに、銅鐸の吊り手や舌の一部には、吊り下げるための紐や、その痕跡が残っていた。松帆銅鐸の発見によって、初期段階の銅鐸は、音を聞く銅鐸であることが明らかになったのである。

また、銅鐸は舌を吊り下げたまま、大きい銅鐸に小さい銅鐸を入れた入れ子にして埋められていた。その理由は明らかにされていないが、使用を終えた後の埋納のあり方を示す例として大変注目される。

松帆銅鐸が見つかった地域は、古くは江戸時代より銅鐸や銅剣の発見地として知られている。瀬戸内を望む交通の要所に位置するこの地域は、青銅器を埋める祭祀をおこなうにふさわしい、神聖な場所であったのかもしれない。

今回は南あわじ市の協力により、当館での公開が叶うこととなった。同時に展示される当館所蔵の銅鐸と見比べながら、「聞く銅鐸」と「見る銅鐸」、各々の姿の美しさを味わって頂ければ幸いである。

中川 あや(当館学芸部教育室長)

■開館日時(1月~3月)

■開館時間/午前9時30分~午後5時

※2月3日(節分の日)、3月12日(雛松明の日)は午後7時まで。
※3月1日(後~11日)月、13日(休~14日)休(東大寺二月堂お水取り期間)は午後6時まで。
※入館は開館の30分前まで。

■休館日/毎週月曜日、1月9日(火)、2月13日(火)

※1月8日(月・祝)、2月12日(月・休)、3月4日(月・11日)月)は開館。
※その他、臨時に休館日を変更することがあります。

■無料観覧日(特別陳列・特集展示・名品展)

/2月3日(土)(節分の日)

※当館には駐車スペースがございませんので近隣の県営駐車場等(有料)をご利用ください。

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはミライROIDをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。
※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は子ども1名につき同伴者2名まで一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。



[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車すぐ。